

Y01a      ハワイ観測所から行う遠隔授業・講演

布施哲治 (国立天文台)

アメリカ・ハワイ州ハワイ島の国立天文台ハワイ観測所では、日本国内の学校をはじめ、科学館・博物館などの生涯教育施設や各種イベントに向けた遠隔授業・講演を1999年から百回以上実施している。当初はISDN電話回線による接続が主であったが、全国の学校や施設にインターネット回線が普及するにつれてIP接続が多くなり、現在ではほとんどが后者である。最近では、SkypeやPCソフトを利用した簡易テレビ会議システムの利用も多くなってきた。日本とハワイの時差は19時間(ハワイが5時間先行)のため、日本の午後の授業中にハワイの夕景や夜景を眺めることも可能で、例えば授業開始時の青空が終了時には夜空になるという演出も行っている。一方で、通信機器や回線の質の向上により「本当はハワイではなくて、隣の部屋にいるのでは？」という質問も出るほどになった。時差や天候の違いから地球が丸いという実体験、外国にある研究現場と中継しているという臨場感、同島に建つすばる望遠鏡を使って研究を進める研究者との間で行われる質疑応答など、生講演とは違った側面を持つ。本発表では、講演者が担当した約100回の遠隔授業・講演の内容や接続方法などに関する統計、実施に伴う各種報道からみた反響、期待される教育普及効果等について報告する。